

教 育 評 価 報 告 書

(平成13年度着手分)

新 潟 大 学 理 学 部

平成14年4月

新潟大学評価委員会

対象組織の現況

学部名及び所在地

学部名：新潟大学理学部

所在地：新潟県新潟市五十嵐2の町8050番地(〒950-2181)

附属施設名：新潟大学理学部附属臨海実験所

所在地：新潟県佐渡郡相川町大字達者87番地(〒952-2135)

両津市からおよそ30kmの距離に位置する。

学科構成

数学科，物理学科，化学科，生物学科，地質科学科，自然環境科学科

このうち，自然環境科学科は平成6年度に新設された学科である。また，地質科学科は，昭和24年の創設時の地質鉱物学科が平成6年度に名称変更された学科である。

学生数

学 科	学 生 数	
	入学定員	学生現員
数学科	35	180
物理学科	45	210
化学科	35	155
生物学科	20	100
地質科学科	25	104
自然環境科学科	30	139
地質鉱物学科		1
合 計	190	889

(平成12年5月1日現在)

平成9年度入学定員の合計は195人である。平成10年度，数学科5人及び物理学科5人，合計10人の臨時増募を返還し，地質科学科では教員増による入学定員増5人を得た結果，平成10年度～平成12年度における各年度の入学定員の合計は190人である。なお，第3年次編入学は平成6年度から実施しており，平成11年度，正式に認可された。入学定員は理学部全体で10人である。従って，平成12年度における学部の総定員は785人となる。

学生現員の合計889人中，男子学生は668人(75.1%)，女子学生は221人(24.9%)である。新潟県内高校の卒業者の合計は340人であり，全学生の38.2%を占める。このうち，男子学生は236人(69.4%)，女子学生は104人(3

(理学部)

0.6%)である。これらの男子学生は全男子学生の35.3%を占め、これらの女子学生は全女子学生の47.1%を占める。

教員数

学科等	教員数(現員)				
	教授	助教授	講師	助手	教員総員
数学科	7	4	1	1	13
物理学科	8	9	0	3	20
化学科	7	5	0	1	13
生物学科	5	4	0	0	9
地質科学科	6	4	0	0	10
自然環境科学科	10	5	1	1	17
附属臨海実験所	1	0	0	1	2
合計	44	31	2	7	84

(平成12年5月1日現在)

教員構成の中で、助手の数はきわめて少なく、全教員の8.3%にすぎない。女性教員については、自然環境科学科に助教授1人及び数学科に助手1人、合計2人であり、さらに、平成13年度、数学科に助教授1人を採用した。外国人教員については、平成9年度、物理学科に助教授1人を採用し、現在に至っている。

教育を重視した国際交流の一環として、平成8年度～平成12年度、返還が延期となった臨時増募教員定員を含む理学部内運用定員を利用して、9カ国から外国人研究者12人を Semester 単位で助教授または助手に採用した。各学科の実績は、数学科2人、物理学科4人、化学科2人、生物学科2人、地質科学科2人である。外国人研究者12人のうち、2人は女性研究者である。

教育目的及び目標

理学部の教育理念

昭和24年に本理学部が創設されたときの理念は、「新潟大学における基礎科学の発展と基礎科学に係わる人材養成」であった。現代の理学は、素粒子から宇宙にいたるまでの物質とあらゆる生命体を含む自然のしくみを探究する学問であり、高度に発達した現代の技術・文化・社会を支える土台となっている。このような学問の急速な展開を受け、設立時の理念を尊重しながらも、現代社会の状況に応えることのできる基礎科学の発展に貢献することを基本とし、応用科学の教育研究に基礎科学の成果を提供するとともに、技術・環境・文化等における社会的要請に応えることのできる教育研究を行うことを理念とする。

(1) 教育目的

現代社会において理学に期待されている役割には二つの側面がある。第一の役割は、ミクロな世界から宇宙に至るまでの自然のしくみを解明すること、すなわち「純粋科学としての知的興味追求」であり、第二の役割は、次世代のエネルギー問題の解決、先端的な科学技術や医療技術の開発、新しい素材の開発、自然環境の保全や創造等の広い応用分野に基礎科学の立場から貢献すること、すなわち「社会的課題解決への貢献」である。

現代社会において科学技術や医療技術の発展は人類の生活水準の向上をもたらしたが、他方において、環境破壊等により人類と自然の存在にとって危機的状況を作りだした。現代の理学には、他の異なる分野との協力、幅広い応用力、的確な判断力が求められると同時に、バランスのとれた自然観や高い倫理観をもつ人材の養成が求められている。

このような社会的背景の中で教育研究の高度化を目指すため、本学では、学際性と総合性を教育研究の理念とし、理学・工学・農学の3学部を基幹学部とする大学院自然科学研究科を設置した。これにより、大学院へ進学する卒業生の数は増加し、平成7年度以降、本理学部卒業生の約半数は自然科学研究科あるいは他大学の大学院に進学している。この事実は、自然科学の教育研究の高度化に対する社会的ニーズの大きさを示している。

少年少女たちの数学・理科離れは深刻な問題である。現状では、我が国の文化は衰退の一途をたどり、まして科学技術の振興はおぼつかない。生徒に自然に対する興味を喚起する優れた中学・高校教員を養成することにより、この問題の解決に貢献することが大学に求められている。新潟県内の中学・高校教員となった卒業生は多く、新潟県の高中学校長協会の会長や教育長等を輩出した本理学部として、見過ごすことのできない問題である。

(理学部)

このような基礎科学と社会からのニーズを踏まえ、本理学部の教育目的を次のように設定している。

(1) 学生受け入れの基本方針

常に向上心をもっていろいろな問題に挑戦する積極性を有し、かつ理学の諸分野に対し適性を有する学生を確保する。

多様な選抜方法により、広く学生を募集する。

(2) 教育内容の基本的性格

学士課程教育の到達目標を定め、それに準拠した教育課程を体系的・段階的に編成する。
・基礎的で幅広い理学の知識と応用力に加え、教養教育を重視して総合的な判断力と倫理観の涵養に努める。

学生に社会性や国際性を身につけさせるように配慮する。

大学院(特に博士前期課程)との接続を考慮した一貫教育課程を編成する。

(3) 教育方法の基本的性格

・多様な選抜方法により入学した学生に対してきめ細かな指導を行う。

少人数教育により、学生一人ひとりの個性を伸ばす。

・教員の教育能力の向上を図り、学生による授業評価を実施して授業方法の改善を図る。

(4) 育成しようとする人材

専門的基礎知識に加え、幅広い視野からの総合的な判断力、応用力、課題探求能力、バランスのとれた自然観、倫理観、社会性ならびに国際性を備え、

・科学技術の基盤である基礎科学を継承すると同時に、その発展を担う人材

・基礎科学を生かして、産業や教育の分野で地域社会や世界に貢献できる人材

(5) 学生支援の基本方針

学生が充実した学生生活を享受できる環境を整備する。

学生の進路意識の向上を図る。

(2) 教育目標

〔理学部共通の教育目標〕

平成6年度、境界領域への発展を目指す基礎科学からの要請と、多様化する社会からの要請に柔軟に対応するため、本理学部では抜本的な改革を実施し、従来の小講座制を大講座制に改めた。それと同時に、理学の立場から環境問題に取り組むために、物理学・化学・生物学・地学の全般にわたる幅広い基礎知識、バランスのとれた自然観、広範な応用力と

問題解決能力を備えた人材を育成するために、総合学科としての「自然環境科学科」を新設した。この改革は、理学に期待されている第二の役割の具体化の一つであるが、自然環境科学科を設置したことで事足りるとせず、この役割のより広範な浸透を目指す。

また、同年度に教養部が廃止されて以来、本理学部は本学の自然科学系教養教育と、生命科学系を含めた自然系全体の基礎教育に対する責任学部としての役割を担うことになった。本理学部では、このような責任学部としての役割を担うと同時に、基礎的で幅広い理学の知識と応用に加え、教養を重視して総合的な判断力と倫理観を身につけた学生を社会に送り出す責任を負っている。さらに高度な理学の教育研究の重心を大学院自然科学研究科に移し、部局や分野の壁を超えた特色ある教育研究拠点の形成に努めることを将来構想としている。また、新潟という地の利を生かした国際共同研究や基礎研究を推進し、日本海側に位置する地域拠点大学及び学際的基幹大学の理学部として、その役割を果たすことを目指している。

佐渡郡相川町に設置されている本理学部の附属臨海実験所は直接日本海の外洋に面し、我が国の臨海実験所の中では特異な立地条件をもつことが特色である。周辺の自然は良く保存されており、貴重な臨海実習施設として発展させることを目指す。

これらの基本構想の下で、以下のような理学部共通の教育目標を設定している。

(1) 学生受け入れの基本方針

アドミッション・ポリシーの確立と周知に努め、求める学生を確保する

卒業生の進路と学部教育の目的・目標との整合性の検討

多様な入学試験により入学した学生の追跡調査による入学試験のあり方の検討

(2) 教育内容と方法の改善

大学院（特に博士前期課程）との連携や教養教育をも考慮した教育体制の整備

・体系的カリキュラム（導入科目，補正科目，専門基礎科目，コア科目，展開科目，発展科目）の提供

・学部横断的な専門基礎科目や情報教育も含めた共通実験基礎科目導入の検討

・総合的な知識と広い応用力，高い倫理観を培うために開設した理学部共通科目の充実
体系化された講義と少人数の演習・実験・実習により，学生一人ひとりの個性を伸ばす
講義内容・範囲の精選，授業方法の改善

社会性を身につけるためのインターンシップの充実

・学内外の研究施設との連携による新しい教育分野の開拓

(理学部)

(3) 教育の質の確保に対する取り組み

シラバスの改良とホームページ上での公開

・セメスター制に合わせた教育体制の確立

単位認定基準の設定と厳格な成績評価の導入の検討

・履修科目登録単位数の上限設定及び成績優秀な学生の早期卒業を実現するための検討

・オフィスアワー導入の検討

・JABEE への対応

(4) 学生への支援強化

より良い学習環境の整備と実験・実習における安全教育の徹底

中学・高校教員，学芸員，技術士補，その他の資格取得に対する助言・指導

就職先の開拓，就職・進学ガイダンスの定期的開催等による進路指導の強化

アドバイザー制導入の検討

(5) 教育改善のためのシステムの構築

ファカルティー・ディベロップメントの実施体制の確立

学生による授業評価の導入とその結果を授業改善に反映させるためのシステムの構築

定期的な自己点検・自己評価の結果を迅速に教育改善に反映させる体制の整備

(6) 国際交流の充実

・教育を重視した国際交流の強化

項目別評価結果

1. アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

ここでは、「アドミッション・ポリシー（学生受入方針）」の策定及び周知・公表状況やその方針に沿った「学生受入の方策」の実施状況について、特記すべき点を「特色ある取り組み、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

特色ある取組・優れた点

理学部の教育理念は、「新潟大学における基礎科学の発展と基礎科学に携わる人材養成」であり、「現代社会の状況に応えることのできる基礎科学の発展に貢献することを基本とし、応用科学の教育研究に基礎科学の成果を提供すること、また技術、環境、文化等における社会要請に応えることのできる教育研究を行うこと」である。そして「求める学生像」は、「常に向上心をもっている様々な問題に挑戦する積極性を有し、かつ理学の分野に対し適性を有する学生」と規定し、具体的には「数学や理科のみならず文系にも興味をもって学び、常に向上心を持つ学生であり、自らの考えを積極的に表現できる個性豊かな、社会性・協調性を備えた学生」としている。

求める学生像はきわめてわかりやすく、この学部の考えをホームページに公開、募集要項にも掲載し、さらに学部説明会、オープンキャンパス、学外説明会などで「学生受け入れ方針」を積極的に説明していることは評価できる。また、理科離れがいわれる昨今、「出前講義」も高く評価できる。受験者も多く、定員充足率についてはよく努力している。

改善を要する点・問題点等

数種類の選抜方法の実施して多様な学生を受け入れるとしながらもその方法に具体性に乏しいこと、入試の前期日程と後期日程の比率が前期日程に偏りすぎていることを改善すること、そのさい「受け入れ方針」に合致した学生の選抜方法の検討も併せて行うことが望ましい。

貢献の状況（水準：7）

学生の受け入れ方針はきわめて明快であり、それに沿った努力をしていることは大いに

(理学部)

評価できる一方、多様な学生を受け入れる方策がやや不明確なことや前期・後期日程の入学定員配分の是正等が必要である。

2. 教育内容面での取り組み

ここでは、「教育課程及び授業の構成」が教育目的及び目標に照らして、十分表現できる内容であるかについて、特記すべき点を「特色ある取り組み、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標への貢献の程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

特色ある取組・優れた点

体系的・段階的学習による学習意欲の向上、必修科目の精選と選択科目の新設、セメスター制の導入、理学部共通科目の開設、講義内容と範囲の精選、相互重複の回避の基本方針及びそれらの実践は大いに評価できる。また各学科ごとの教育目的を実現するためのカリキュラムの編成はよい。さらに教育・研究の活性化のための教員公募ならびその際の基本的な考え方、自校出身者数の減少、女性教員の採用への努力や運用定員による外国人教員の採用などは大いに評価できる。

改善を要する点・問題点等

理学部の教育方針として「数学や理科のみならず文系にも興味をもって学び、常に向上心を持つ学生であり、自らの考えを積極的に表現できる個性豊かな、社会性・協調性を備えた学生」としているが、科学の社会的・倫理的側面を考えた教育のための科目の開講ならびに教養科目及び専門科目の履修方法の指導が必ずしも十分おこなわれているとはいえないようである。よって、教養教育科目並びに専門共通科目を含め、導入科目、補正科目、専門基礎科目、コア科目、展開科目及び発展科目に科目を体系化する計画は大いに評価できるので、早急に実現することが望まれる。

貢献の状況(水準：7)

取り組みは教育目的及び目標の達成に努力して実現しているが、内容の充実に向けて一部改善の余地がある。

3. 教育方法及び成績評価面での取り組み

ここでは、「教育方法及び成績評価法」が教育目的及び目標に照らして、適切であり、教育課程及び個々の授業の特性に合致したものであるかを評価し、特記すべき点を「特色ある取り組み、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

特色ある取組・優れた点

学生にアンケート調査を継続的に行い、それに基づく改善策の提案と問題点の整理は大いに評価でき、学生の授業評価もよい。また、「理学部の教育に関する討論会」の開講や教育改善のための定期的なFDの開催は大いに評価できる。また講義科目に対する成績評価基準がシラバスに明示されていることもよい。また、実験・実習科目では、口頭発表、レポートや論文で評価するシステムは学生の教育上大いに評価でき、さらに推進することが望ましい。また、貧困な財政状況のなかで学部として学生の学習環境の整備に努力していることも評価できる。

改善を要する点・問題点等

TA及びRAの本来の目的は、将来の教育者・研究者の養成のための制度と考えれば、それらの任用と活用は学部としてどうするかを検討し、更に自然科学研究科と検討する必要がある。インターンシップについては学部の性質上、参加者が少ないのもやむを得ないことも理解できるが、一層の努力が必要である。また、学部で講義室の管理が行われていないことや付属図書館との関係を考えながら理学部共通の図書室の整備が必要と思われる。

貢献の状況（水準：7）

取り組みは多岐にわたって精力的に行われており教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、更に具体的な成果を得るための改善をすべき点もある。

4. 教育の達成状況

ここでは、「学生が身につけた学力や育成された資質・能力の状況」や「卒業後の進路の状況」などから判断して、教育目的及び目標において意図する教育の成果がどの程度達

(理学部)

成されているかについて評価し、特記すべき点を「特色ある取り組み、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標への貢献の程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

特色ある取組・優れた点

学生の進級率低下の原因を明らかにするためにアンケートをとり、その原因を明らかにしていることや成績不振学生を個別に指導していることなど、学生の教育に対して努力していることは評価できる。また、理科及び数学の中学校教諭・高等学校教諭一種免許状の取得や学芸員資格の取得に必要な科目を教育人間科学部ならびに人文学部とともに開講していることは大いに評価できる。そして多数の卒業生が地元の教育機関や企業などに就職していることは地域社会への貢献という点から評価できる。

改善を要する点・問題点等

進級率の低下が高学年に進むほど高くなることの原因を明らかにし、留年者、休学者及び退学者数を減らす方策を早急に立てる必要がある。その一つとして、講義内容についても現在の高校教育の現状を踏まえた改善が必要であり、必要な場合は基礎科目の補習も考える必要があろう。また、資格取得に必要な科目を卒業要件単位として認めることを実施すれば学生の負担も軽減される。

貢献の状況(水準：7)

取り組みとしては教育目的及び目標の達成や学生の要求に応えるべく努力しているが、学生の質の向上のための目標ならびにその実現のためには改善の余地もある。

5. 学生に対する支援

ここでは、「学習や生活に関する環境」や「相談体制」の整備状況や「学生に対する支援」が適切に行われているかを評価し、特記すべき点を「特色ある取り組み、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標への貢献の程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

特色ある取組・優れた点

平成7年に設立された後援会からの援助に基づく学生に対する支援事業は貧困な政府の教育予算を少しでも補うという涙ぐましい努力といえる。その援助の下に、特別講演会の開催、学生の課外活動・福利厚生及び教育活動や広報誌「理学部は今」の発行などは大いに評価できる。また安全教育のために、安全管理について必要な知識をまとめた「安全の手引き」を新生や編入学生のガイダンスの際に配布して注意を喚起していることは大切なことであり、評価できる。また経済支援のために育英会のみならず多くの奨学制度への応募者への適切な指導は大いに評価できる。また、就職、進学の指導・助言のための諸活動、学部長、副学部長及び関連教員による積極的な企業訪問、就職委員会による3年次学生に対する就職・進学ガイダンスの実施、広報誌を通じて企業の考えや社会的ニーズなどについての保護者へ周知など、学生支援のためには他学部でも実施すべき内容が多々ある。

改善を要する点・問題点等

「安全の手引き」の配布など安全教育に力を注いでいるが、さらに学生災害保険へ多くの学生が加入するよう努力が必要である。また、学生委員の居室に「学生相談員」を表示し、相談に応ずる体制はできつつあるが、シラバスにオフィスアワーの明記や理学部学生の要望を聞く体制の確立などは改善すべき点である。

貢献の状況（水準：7）

取り組みは教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、学生が一層充実した大学生生活を送るために改善の余地がある。

6. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

ここでは、教育活動等について、それらの状況や問題点を組織自身が把握するための「教育の質の向上及び改善のためのシステム」が整備され機能しているかについて評価し、特記すべき点を「特色ある取り組み、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

特色ある取組・優れた点

(理学部)

他学部に先駆け、自己点検・自己評価をおこない、第3回目の自己点検・自己評価の結果を外部評価に委ね、その中で指摘されたことを改善するための努力は評価できる。なかでも、教員の昇任及び採用人事に教育面の評価を加味するように努め、教育面での経験と実績、教育に対する考え方や熱意等を教育評価の判断材料としていること、そのために面接やセミナーを実施していることは大いに評価できる。また、外部評価に基づき、教育課程の体系化、成績評価の基準設定、履修科目登録の上限設定などの重要事項について改革の方向を検討し、改革を実施に移すべき検討を開始したことは評価できる。

改善を要する点・問題点等

平成5年から10年にかけて学生に実施したアンケートの結果が「教育改善システム」の改善に必ずしも生かされていないことは改善すべき点である。またこの項ではアンケート調査がいくつか計画中されており、それを着実に実行し、そのデータを分析して、その結果を教育の質の向上及び改善のために積極的に生かす努力を期待したい。

貢献の状況(水準:6)

取り組みは教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、学生が一層充実した大学生生活を送るために改善の余地がある。

総合的評価結果

理学部の教育理念に基づく「求める学生像」は、「常に向上心をもっているいろいろな問題に挑戦する積極性を有し、かつ理学の分野に対し適性を有する学生」と規定し、具体的には「数学や理科のみならず文系にも興味をもって学び、常に向上心を持つ学生であり、自らの考えを積極的に表現できる個性豊かな、社会性・協調性を備えた学生」としている。

この「求める学生像」をホームページ、学部説明会や公開キャンパスなどで広く一般に公表している。入学者に対してはその実現のために、学生の進路決定のための援助、学生教育のための新規講義の開講やその内容について集団での討議、教員人事の際の工夫や学生へのアンケート実施による問題点の抽出、学生の授業評価システムの実施など様々な面で努力がなされている。その結果、卒業生は全国で様々な職種で活躍している一方、新潟県内への就職も多く、特に教師としての活躍が見られる。これら努力の継続と一層の発展を今後とも期待したい。

教科目の開講や内容の点検においては、体系的・段階的学習による学習意欲の向上、必修科目の精選と選択科目の新設、 Semester 制の導入、理学部共通科目の開設、講義内容と範囲の精選、相互重複の回避の基本方針を立て、その実施及び実施に向けての努力は大いに評価できよう。また、学生が快適な大学生活を送るために必要な学習環境の整備などにも努力している。

理学部が行ってきた教育改善のためのさまざまな取り組みは全学のモデルとなりうるものも多くあり、全体として、教育に関する多岐にわたる点において、積極的かつ先進的な施策を実施していることを高く評価したい。そして取り組みは教育目的及び目標の達成におおむね貢献している。しかしながら、さらに改善すべき点もある。例えば、入学者は必ずしも明確な目的・意識をもった学生とは限らず、学生生活の途中で学生生活を断念する者も多い。今回の自己評価書にはこの点についてあまり解析されていない。教育改善のための学生アンケート調査とそれに基づく改善策の提案と問題点の整理などは大切であり、それらの結果並びに方針を速やかに公表し、実行する努力を今後望みたい。そのことにより、理学部の教育が更に前進し、「求める学生像」の実現が可能となろう。

(理学部)

評価結果の概要

1. 項目別評価の概要

1) アドミッション・ポリシー(学生受入方針)

理学部の「求める学生像」はきわめて明快で、この考えをホームページに公開や募集要項にも掲載し、さらに学部説明会、オープンキャンパス、学外説明会などで「学生受入方針」を積極的に説明していることは評価できる。また、理科離れがいわれる昨今、「出前講義」も高く評価できる。受験者も多く、定員充足率についてはよく努力している。一方、数種類の選抜方法の実施して多様な学生を受け入れるとしながらもその方法に具体性に乏しいこと、前期と後期の比率が前期に偏りすぎていることなど、改善すべきところもある。

2) 教育内容面での取り組み

体系的・段階的学習による学習意欲の向上、必修科目の精選と選択科目の新設、 Semester制の導入、理学部共通科目の開設、講義内容と範囲の精選、相互重複の回避の基本方針及びそれらの実践は大いに評価できる。また各学科ごとの教育目的の実現のためのカリキュラムの編成はよい。さらに教育・研究の活性化のための教員公募ならびその際の基本的な考え方、自校出身者数の減少、女性教員の採用への努力や運用定員による外国人教員の採用など大いに評価できる。一方、これらの努力にもかかわらず、新たに開講した科目、教養科目及び専門科目の履修方法の指導が必ずしも十分ではないことから、これらの改善が必要である。

3) 教育方法及び成績評価面での取り組み

学生にアンケート調査を継続的に行い、それに基づく改善策の提案と問題点の整理や学生の授業評価の実施、定期的なFDの開催やシラバスに各科目の成績評価基準の明示も評価できる。一方、TA及びRAの活用やインターンシップの充実への努力、学部としての講義室の管理、学生の学習のための図書室の整備などの検討が必要と思われる。

4) 教育の達成状況

アンケートで学生の進級率の低下の原因を明らかにして、成績不振学生を個別に指導していること、教諭免許状や学芸員資格取得に必要な各教科目を開講していることも大いに評価できる。一方、進級率の低下が高学年に進むほど高くなることの原因を明らかにし、留年者、休学者及び退学者数を減らすことの方策を早急に立てる必要がある。

5) 学生に対する支援

平成7年に設立された後援会からの援助に基づく学生に対する支援事業，特別講演会の開催，学生の課外活動・福利厚生及び教育活動や広報誌「理学部は今」の発行などは大いに評価できる。また安全教育も評価できる。また学部長，副学部長及び関連教員による積極的な就職，進学の指導・助言のための諸活動，企業訪問，広報誌を通じて大学，企業の考えや社会的ニーズなどについての保護者へ周知など，学生支援のためには他学部も見習うべき内容が多々ある。一方，学生災害保険の加入率の向上，理学部学生の要望を聞く体制の整備などは改善すべき点である。

6) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

他学部在先駆け，自己点検・自己評価ならび外部評価を依頼し，その中で指摘されたことを改善するための努力は評価できる。なかでも，教員の昇任及び採用人事に教育面の評価を加味するように努め，教育面での経験と実績，教育に対する考え方や熱意等を教育評価の判断材料としていること，そのために面接やセミナーを実施していることは大いに評価できる。一方，学生に実施したアンケートの結果が「教育改善システム」の改善に必ずしも生かされていないことは改善すべき点であり，今後教育の質の向上及び改善のために積極的に生かす努力を期待する。

2. 総合的評価の概要

理学部の教育理念に基づく「求める学生像」は明快であり，その実現に向けて学生の進路決定のための援助，学生教育のための新規講義の開講やその内容について集団での討議，教員人事のさいの工夫や学生へのアンケート実施による問題点の抽出，学生の授業評価システムなどの実施などの様々な面で努力がなされている。これら努力の継続と一層の発展を今後とも期待したい。改善すべき点として，入学者は必ずしも明確な目的・意識をもった学生とは限らず，途中で学生生活を断念する者も多い。今回の自己評価書にはこの点についてあまり解析されていない。教育改善のための学生アンケート調査とそれに基づく改善策の提案と問題点の整理などは大切であり，それらの結果ならびに方針を速やかに公表し，実行する努力を望みたい。そのことにより，理学部の教育がさらに充実したものとなる。

